



野間仁根《瀬戸内海 能島附近》

野間仁根 館蔵品展

「自由に、思うがままに」

—Part2 海—

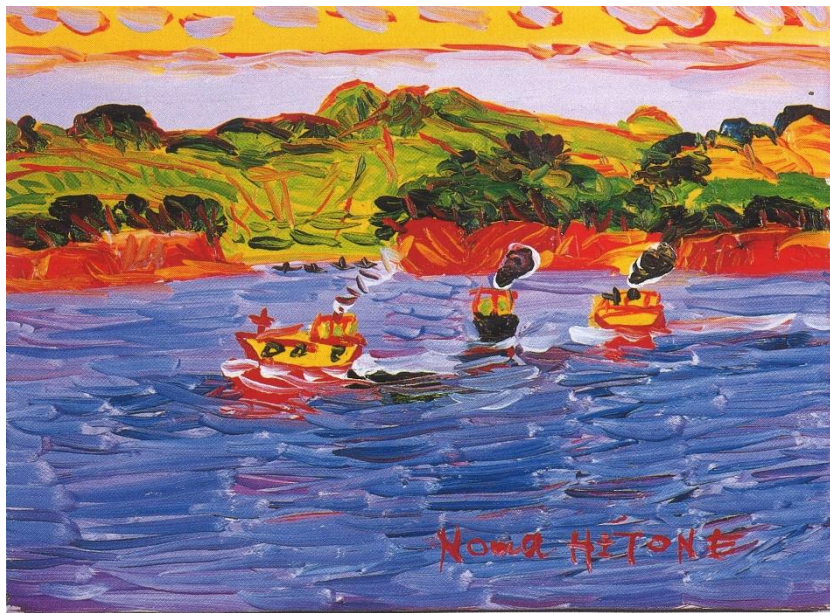
2020年7月18日（土）～2020年9月27日（日）

休館日 ◆月曜日（祝日の場合は直近の平日）
 開館時間 ◆9：00～17：00（入場は16：30まで）
 入館料 ◆一般310円・学生160円
 ◆高校生以下または18歳未満無料
 ※大人団体（20名以上）250円
 ※65歳以上の方250円
 ※障害者手帳をお持ちの方
 またその介助者1名は無料

野間仁根  バラのミュージアム

（今治市吉海郷土文化センター）

〒794-2103
 愛媛県今治市吉海町福田1290番地
 TEL/FAX (0897) 84-2566



野間仁根 《伯方島遠望》

野間仁根バラのミュージアム（今治市吉海郷土文化センター）では、郷土出身の洋画家、野間仁根の作品を所蔵しています。

今回は、今年初旬に開催した「Part1 森」に引き続き、「海」をテーマに描かれた作品を展示します。

仁根のそばには常に海がありました。瀬戸内海に浮かぶ大島の越智郡津倉村（現在の今治市吉海町）に生まれ、実家は代々地元の塩田の浜旦那として栄えた旧家でした。大正8年に上京し、画家としての道を歩みますが、昭和19年に疎開のため吉海へ帰郷、再び上京する昭和27年までは吉海に留まり、釣りや写生の毎日だったといえます。

仁根は晩年繰り返し瀬戸内海の風景を描いています。「風景を描くなら故郷を描け」と語る仁根にとって瀬戸内海の風景は胸中にあり続けた風景でした。また、第二の故郷と言った外房州の風景も多く描かれています。

仁根が自由に、思うがままに描いた大胆で、色鮮やかで、そして郷愁を感じる「海」をどうぞご覧ください。

《参考：長井健「野間仁根の文人性について－昭和10～20年代の動向を中心に－」》

Noma hitone



野間仁根（1901-1979）

【略歴】

- 1901年 2月5日津倉村（現吉海町）に生まれる。
- 1919年 伯父を頼り、母と上京。
- 1920年 川端画学校に学び、4月東京美術学校（現東京芸術大学）に入学。
- 1924年 第11回二科展で「ランプのある静物」が初入選。
- 1925年 東京美術学校卒業。
- 1928年 第15回二科展で「夜の床」が樗牛賞受賞。
- 1929年 第16回二科展で「ぜ・ふるむうん」が二科賞受賞。
- 1931年 佐藤春夫作「むさしの少女」に挿絵を描く。
- 1932年 津倉村に於いて志那と結婚。
- 1933年 二科会会員に推挙される。
- 1938年 熊谷守一と作品発表2人展を開催。
- 1944年 郷里（津倉村）に疎開。二科会解散。
- 1955年 二科会脱退。同年、鈴木信太郎らと一陽会を結成。その後、個展や小規模なグループ展を開催。
- 1979年 12月30日、78歳で逝去。現在も吉海町の福蔵寺に眠る。

展示室 2



展示室 3



館内インフォメーション

■展示室 1 ≫ 有料貸出施設

個展、習い事教室、趣味の展示会などにご利用いただけます。

■展示室 2 ≫ ふるさとの暮らし

吉海の産業の歴史や、実際に使用されていた古民具、漁具、農具などの展示。

■展示室 3 ≫ 郷土のあゆみ

大島に現存する神社で、最も古い田中神社ゆかりの品、その他土器などの展示。

アクセス

■広島県側から

- 【自動車】 しまなみ海道大島北ICから約10分
- 【バス】 広島バスセンター／福山駅前より
しまなみライナーにて大島BS下車、島内路線バスに乗換
「幸（さいわい）」下車、バス停より徒歩10分

■愛媛県側から

- 【自動車】 しまなみ海道大島南ICから約10分
- 【バス】 松山市駅／今治駅より
大三島行き高速バスにて「吉海支所」下車
バス停より徒歩15分

〒794-2103 愛媛県今治市吉海町福田1290番地 TEL/FAX (0897) 84-2566

野間仁根  バラのミュージアム（今治市吉海郷土文化センター）

